

I 集計結果

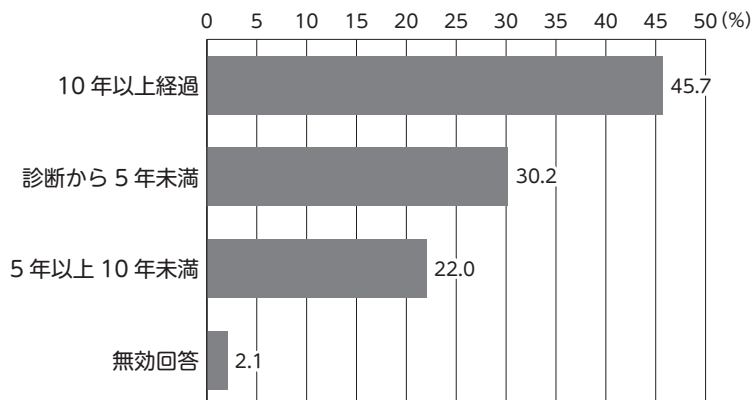
問① あなたが乳がんと診断されてから何年経過していますか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	診断から5年未満	174	30.2
2	5年以上10年未満	127	22.0
3	10年以上経過	263	45.7
	無効回答	12	2.1
	全体	576	100.0

複数回答数：10 無回答：2

Point

- 今回の調査参加者の乳がん診断からの年数では、乳がん診断から5年未満の者が約3割、5年以上の者が約7割であった。
- 500人を超える多数の乳がん患者からのアンケートであり、診断から5年未満、5～10年、10年以上経過例ともに幅広く含まれている。

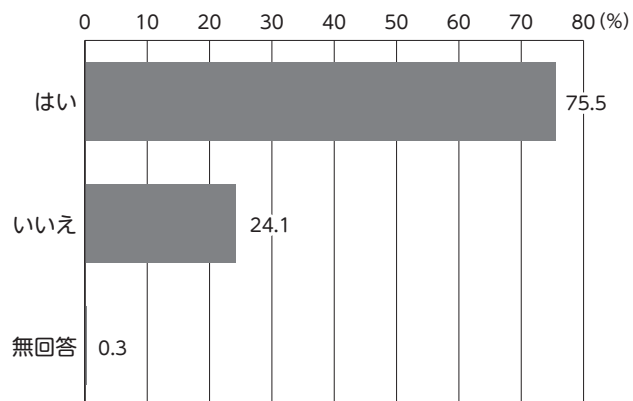


問② 乳がんが見つかるまでに検診を受けたことがありましたか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	はい	435	75.5
2	いいえ	139	24.1
	無回答	2	0.3
	全体	576	100.0

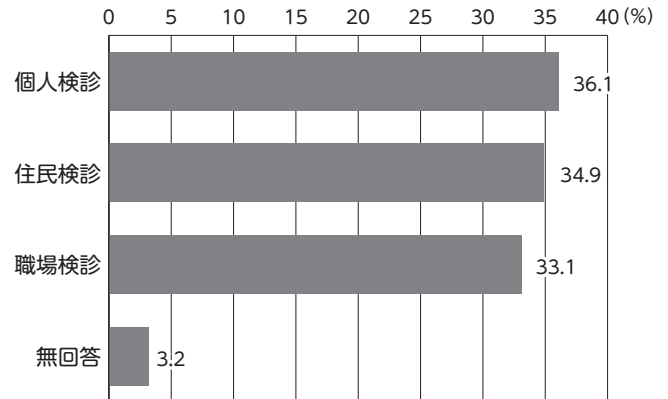
Point

- 調査参加者の四分之三（3/4）が、乳がん罹患以前に乳がん検診を受診していた。
- 乳がん発見までに検診を受診している者が多いので、検診についてのアンケート結果が興味深い。



問③ 検診を受けたことがある方にお尋ねします
(1) 検診の種類を教えてください

No.	カテゴリー名	人数	%
1	住民検診	152	34.9
2	職場検診	144	33.1
3	個人検診	157	36.1
	無回答	14	3.2
	非該当	141	
	全体	435	100.0

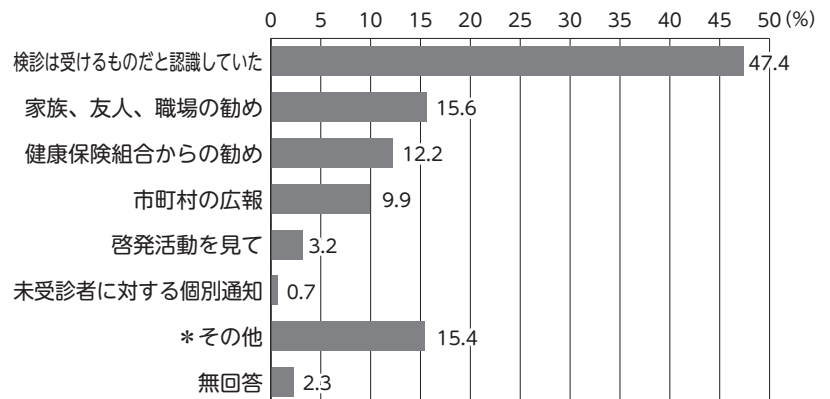


Point

- ・乳がん患者が、3つの種類の検診を同程度受診している実態がみられ、興味深い。

問③ (2) 検診を受けた動機は何ですか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	検診は受けるものだとして認識していた	206	47.4
2	市町村の広報	43	9.9
3	未受診者に対する個別通知	3	0.7
4	健康保険組合からの勧め	53	12.2
5	啓発活動を見て	14	3.2
6	家族、友人、職場の勧め	68	15.6
7	その他	67	15.4
	無回答	10	2.3
	非該当	141	
	全体	435	100.0



Point

- ・「検診は受けるものだとして認識していた」と回答した者が約5割にみられ、検診受診への認識が高いことがうかがえた。
- ・検診を受けることの重要性を自ら十分に理解していることが受診行動につながっている。

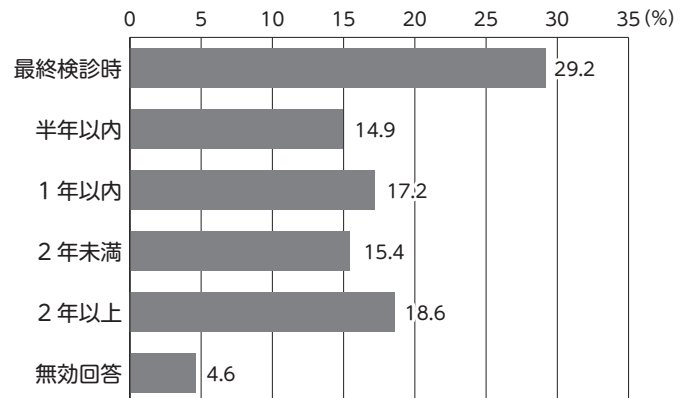
*** その他**

- ・自覚症状があった
- ・家族親族に乳がん患者が多かった
- ・婦人科からの勧め
- ・乳腺症があった

問③ (3) 最終検診から乳がんが見つかるまでの期間を教えてください

No.	カテゴリー名	人数	%
1	最終検診時	127	29.2
2	半年以内	65	14.9
3	1年以内	75	17.2
4	2年未満	67	15.4
5	2年以上	81	18.6
	無効回答	20	4.6
	非該当	141	
	全体	435	100.0

複数回答数：3 無回答：17

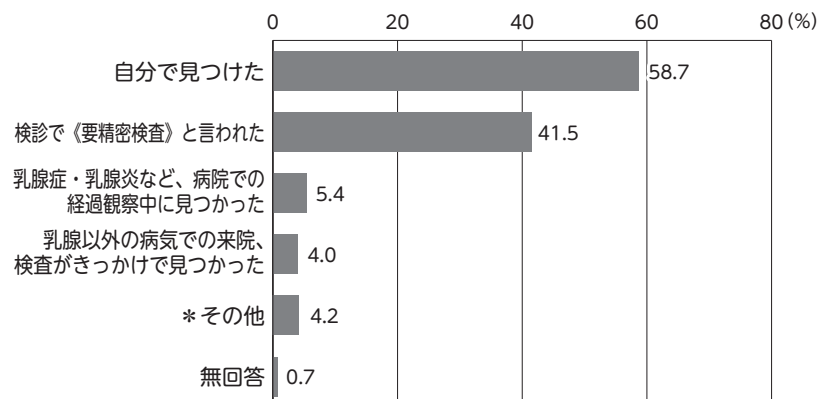


Point

- ・「最終検診時」から「1年以内」が61.3%、「最終検診時」から「2年未満」が76.7%であった。1年あるいは2年に一回の検診受診の勧奨・受診行動の促進が大切である。
- ・検診で発見されたのは3割であり、その後の1～2年で多くの乳癌が発見されていたという事実は興味深く、検診後の経過観察や自分の乳房の変化に関心を持つことがとても大切である。

問④ あなたの乳がん発見のきっかけをお聞かせください（乳がんの徴候、しこりなど）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	検診で《要精密検査》と言われた	239	41.5
2	自分で見つけた	338	58.7
3	乳腺症・乳腺炎など、病院での経過観察に見つかった	31	5.4
4	乳腺以外の病気での来院、検査がきっかけで見つかった	23	4.0
5	その他	24	4.2
	無回答	4	0.7
	全体	576	100.0



Point

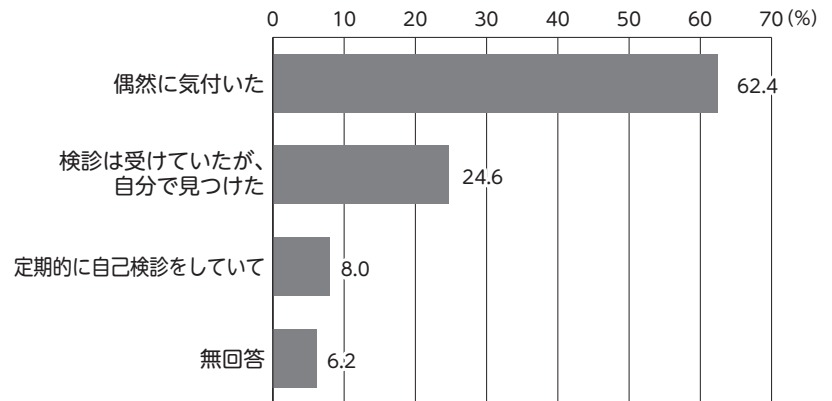
- ・乳がん発見のきっかけでは、検診で《要精密検査》と言われた者が約4割、自分でしこりを見つけた者が約6割であった。このことから、乳がんの早期発見には定期的な検診受診とともに、乳房の自己検診の実施を啓発・促進することが重要と示唆された。
- ・検診で《要精密検査》となり、乳がんが発見された人より自分でみつけたという人が多い。自己発見乳がんはマンモグラフィなどによる検診発見乳がんより進行している可能性があり、早期発見のためにさらに検診受診者を増やすことが大切である。

***その他**

- ・痛みがあった
- ・家族が異常を指摘
- ・検診モニターになった
- ・更年期で婦人科受診

問④－2 自分で見つけたと答えた方

No.	カテゴリー名	人数	%
a	偶然に気付いた	211	62.4
b	定期的に自己検診をしていて	27	8.0
c	検診は受けていたが、自分で見つけた	83	24.6
	無回答	21	6.2
	非該当	238	
	全体	338	100.0



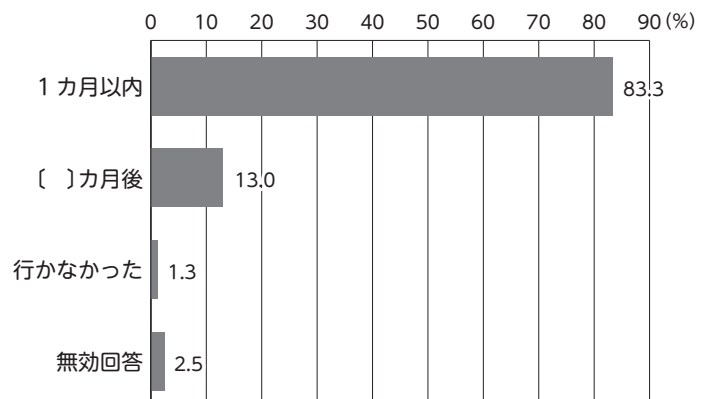
Point

- ・自分で気付いた・見つけたという回答が87.0%にのぼった。自分自身で（しこりの存在に）気づけることから、乳がんの早期発見には定期的な乳房の自己検診が大切である。
- ・自分で見つけたという人の6割以上が偶然発見である。偶然発見の場合は、定期的な自己検診発見より進行していることが多いので、毎月1回の自己検診が大切である。

問⑤ 【検診で《要精密検査》と言われた方にお尋ねします】 検診で《要精査》と言われて、いつ病院へ行きましたか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	1ヵ月以内	199	83.3
2	[]ヵ月後	31	13.0
3	行かなかった	3	1.3
	無効回答	6	2.5
	非該当	337	
	全体	239	100.0

複数回答数：1 無回答：5



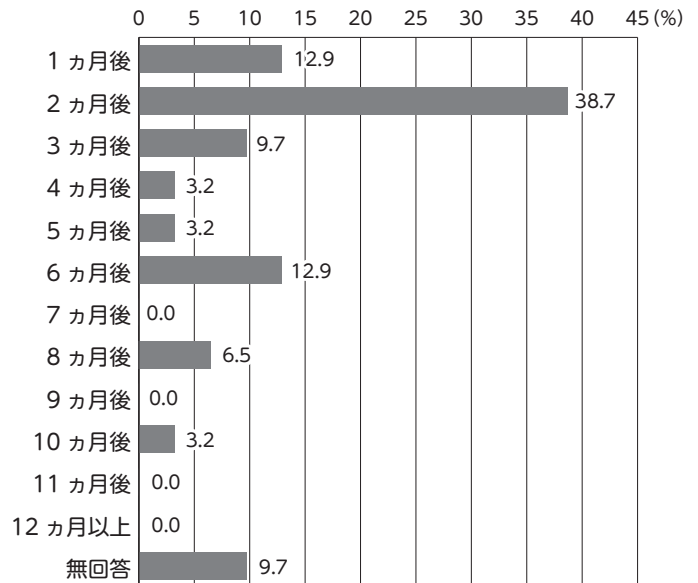
Point

- ・検診での《要精密》と指摘された者の8割以上が、1ヵ月以内に受診行動をおこなっていた。

問⑤-2 《要精密検査》と言われ〔 〕ヵ月後に病院に行きましたか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	1ヵ月後	4	12.9
2	2ヵ月後	12	38.7
3	3ヵ月後	3	9.7
4	4ヵ月後	1	3.2
5	5ヵ月後	1	3.2
6	6ヵ月後	4	12.9
7	7ヵ月後	0	0.0
8	8ヵ月後	2	6.5
9	9ヵ月後	0	0.0
10	10ヵ月後	1	3.2
11	11ヵ月後	0	0.0
12	12ヵ月以上	0	0.0
	無回答	3	9.7
	非該当	545	
	全体	31	100.0

平均：3.46 標準偏差：2.423

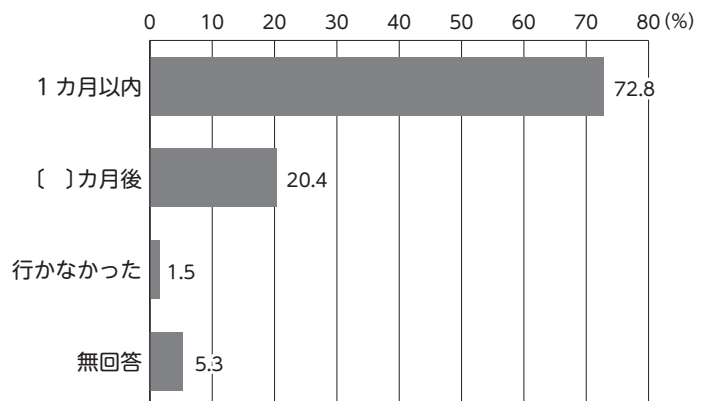


Point

- ・検診で《要精密》を指摘され、病院を3ヵ月後までに受診した者は61.3%、6ヵ月後までに受診した者は19.3%、9ヵ月後までに受診した者は6.5%であった。
- ・《要精密検査》と言われた場合には8割以上の者が6ヵ月以内の早期に病院を受診している。

問⑥ [自分で見つけた方にお尋ねします]
自分でしこりなど違和感を感じて、いつ病院に行きましたか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	1ヵ月以内	246	72.8
2	〔 〕ヵ月後	69	20.4
3	行かなかった	5	1.5
	無回答	18	5.3
	非該当	238	
	全体	338	100.0



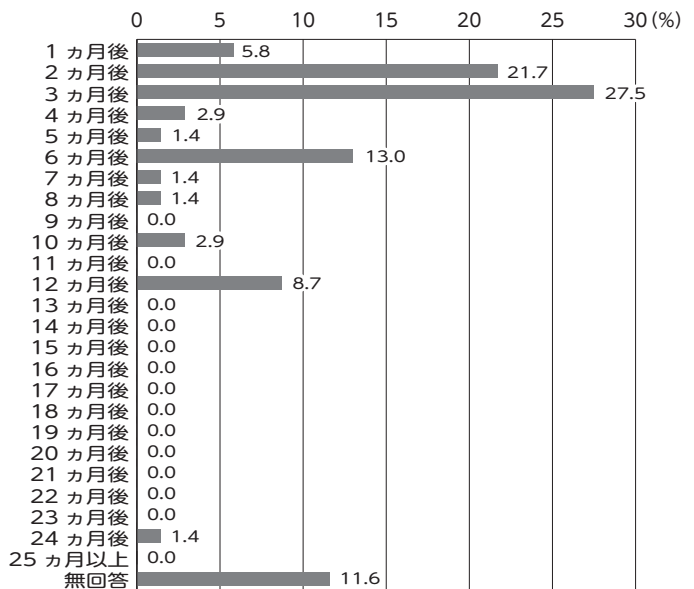
Point

- ・自分でしこりなどの乳房の違和感を感じてから、約7割が1ヵ月以内に病院を受診していた。しこりなどの乳房の違和感の自覚は、病院受診行動を促進するものと考えられた。

問⑥-2 自分で見つけて〔 〕ヵ月後に病院に行きましたか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	1ヵ月後	4	5.8
2	2ヵ月後	15	21.7
3	3ヵ月後	19	27.5
4	4ヵ月後	2	2.9
5	5ヵ月後	1	1.4
6	6ヵ月後	9	13.0
7	7ヵ月後	1	1.4
8	8ヵ月後	1	1.4
9	9ヵ月後	0	0.0
10	10ヵ月後	2	2.9
11	11ヵ月後	0	0.0
12	12ヵ月後	6	8.7
13	13ヵ月後	0	0.0
14	14ヵ月後	0	0.0
15	15ヵ月後	0	0.0
16	16ヵ月後	0	0.0
17	17ヵ月後	0	0.0
18	18ヵ月後	0	0.0
19	19ヵ月後	0	0.0
20	20ヵ月後	0	0.0
21	21ヵ月後	0	0.0
22	22ヵ月後	0	0.0
23	23ヵ月後	0	0.0
24	24ヵ月後	1	1.4
25	25ヵ月以上	0	0.0
	無回答	8	11.6
	非該当	507	
	全体	69	100.0

平均：4.74 標準偏差：4.082



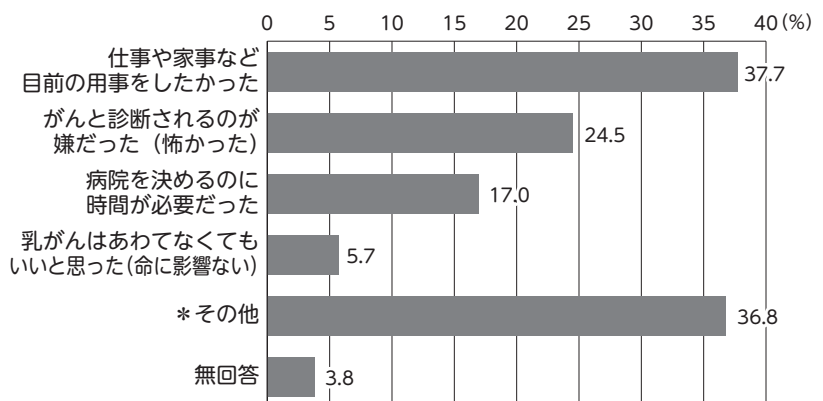
Point

- ・（1ヵ月以内に病院を受診した者を除いて）しこりなどの乳房の違和感を自覚しても、約3割は早期に病院受診行動に移していないことが明らかとなった。4ヵ月後以降の受診であった。
- ・検診で異常を指摘された場合と違って、自分で異常を発見した場合は3割の者が早期に医療機関を受診していない点が問題である。

問⑦ [問⑤⑥で病院に1ヵ月以内に行かなかった方にお尋ねします]
すぐに病院へ行かなかった理由は何ですか（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	がんと診断されるのが嫌だった（怖かった）	26	24.5
2	乳がんはあわてなくてもいいと思った（命に影響ない）	6	5.7
3	病院を決めるのに時間が必要だった	18	17.0
4	仕事や家事など目の前の用事をしたかった	40	37.7
5	その他	39	36.8
	無回答	4	3.8
	非該当	470	
	全体	106	100.0

累計（人）：133 累計（%）：125.5



Point

- ・速やかな受診行動につながらない背景には、仕事や家事などその人の担う役割等の社会面とがん診断への恐れという心理面があることが示された結果であった。
- ・乳房の異常を自覚した際に医療機関を受診しやすい職場環境改善が急務である。また、知識不足のために怖がり、受診をためらう人をなくすための啓発が大切である。

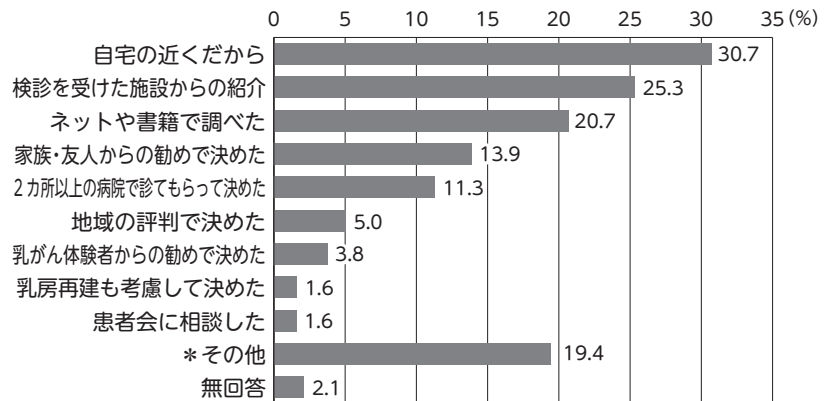
***その他**

- ・ガンとは思わなかった
- ・予約がすぐ取れなかった
- ・経過観察を言われたから
- ・集団検診の結果が異常なしだった
- ・家族の看病で忙しかった

問⑧ どのようにして病院を決めましたか（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	検診を受けた施設からの紹介	146	25.3
2	自宅の近くだから	177	30.7
3	ネットや書籍で調べた	119	20.7
4	2カ所以上の病院で診てもらって決めた	65	11.3
5	乳房再建も考慮して決めた	9	1.6
6	家族・友人からの勧めで決めた	80	13.9
7	乳がん体験者からの勧めで決めた	22	3.8
8	患者会に相談した	9	1.6
9	地域の評判で決めた	29	5.0
10	その他	112	19.4
	無回答	12	2.1
	全体	576	100.0

累計（人）：780 累計（%）：135.4



*** その他**

- ・ かかりつけの病院
- ・ 検診を受けた病院
- ・ 通院に便利

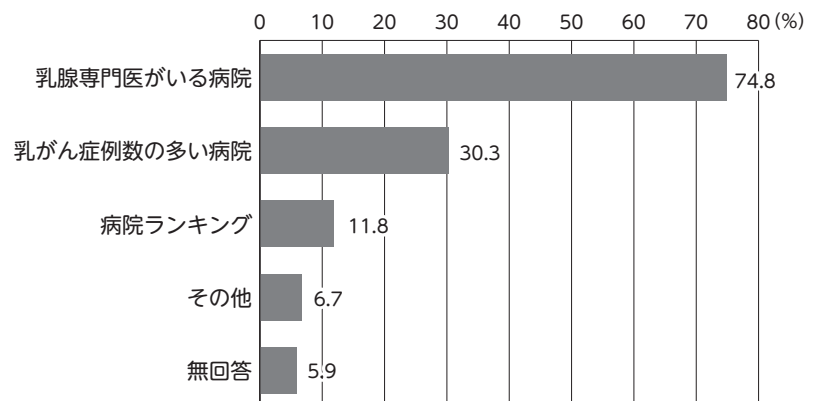
Point

- ・ 「自宅の近くだから」と回答した者が3割を超えており、「自宅の近く」の乳腺専門医（がいのる病院）の存在を周知する必要がある。

問⑧-3 ネットや書籍で調べたと答えた方

No.	カテゴリー名	人数	%
a	乳腺専門医がいる病院	89	74.8
b	乳がん症例数の多い病院	36	30.3
c	病院ランキング	14	11.8
d	その他	8	6.7
	無回答	7	5.9
	非該当	457	
	全体	119	100.0

累計（人）：154 累計（%）：129.4



Point

- ・ 異常が発見されたときは自宅に比較的近い専門医のいる病院を受診することが重要であり、乳がん手術後はかかりつけ医との連携で経過観察を行うことを推奨したい。

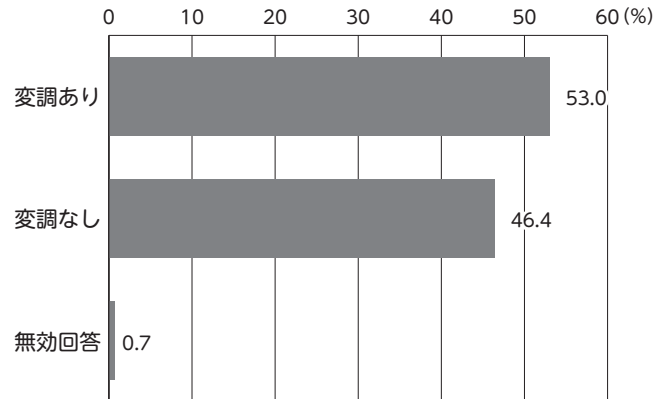
問⑨ あなたは乳がんと診断される前、何らかの体の変調がありましたか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	変調あり	305	53.0
2	変調なし	267	46.4
	無効回答	4	0.7
	全体	576	100.0

複数回答数：1 無回答：3

Point

- 乳がん体験者の約半数は、乳がん診断前に何らかの体の変調を感じていた。

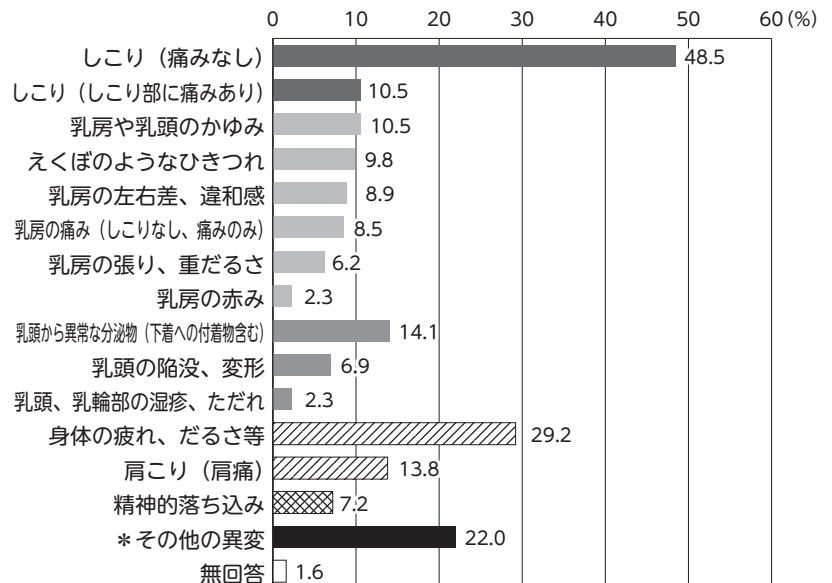


問⑩ [変調ありと答えた方にお尋ねします]

どのような変調がありましたか 後になって思い当たることも教えてください（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	しこり（痛みなし）	148	48.5
2	しこり（しこり部に痛みあり）	32	10.5
3	乳房の赤み	7	2.3
4	えくぼのようなひきつれ	30	9.8
5	乳頭の陥没、変形	21	6.9
6	乳房の左右差、違和感	27	8.9
7	乳頭から異常な分泌物（下着への付着物含む）	43	14.1
8	乳房の痛み（しこりなし、痛みのみ）	26	8.5
9	乳房や乳頭のかゆみ	32	10.5
10	乳頭、乳輪部の湿疹、ただれ	7	2.3
11	乳房の張り、重だるさ	19	6.2
12	肩こり（肩痛）	42	13.8
13	身体の疲れ、だるさ等	89	29.2
14	精神的落ち込み	22	7.2
15	その他の異変	67	22.0
	無回答	5	1.6
	非該当	271	
	全体	305	100.0

累計（人）：617 累計（%）：202.3



***その他**

- 体重の減少
- ピリピリした痛み（しこり以外）
- 発熱
- 湿疹
- 不定愁訴

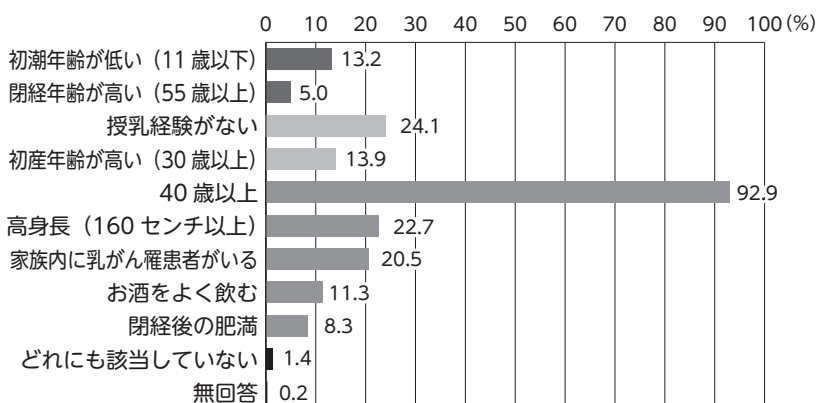
Point

- 体の変調には、しこりの存在・乳房の変化・乳頭乳輪の異常・不快な身体症状・ネガティブな精神状況・その他の異変がみられた。
- 身体の変調を感じた者の過半数は乳房のしこりを中心とする乳房・乳頭の異常であった。また、疲労感、肩こり、精神的落ち込みが比較的多くみられたが、乳がんの特徴的なものであるかは不明であり、今後の検討が必要である。

問⑪ 乳がんのパフレットには、以下の危険因子がよく掲載されていますが、罹患時にあなたは該当していましたか（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	初潮年齢が低い（11 歳以下）	76	13.2
2	閉経年齢が高い（55 歳以上）	29	5.0
3	初産年齢が高い（30 歳以上）	80	13.9
4	授乳経験がない	139	24.1
5	40 歳以上	535	92.9
6	高身長（160 センチ以上）	131	22.7
7	閉経後の肥満	48	8.3
8	お酒をよく飲む	65	11.3
9	家族内に乳がん罹患者がいる	118	20.5
10	どれにも該当していない	8	1.4
	無回答	1	0.2
	全体	576	100.0

累計（人）：1,230 累計（%）：213.5



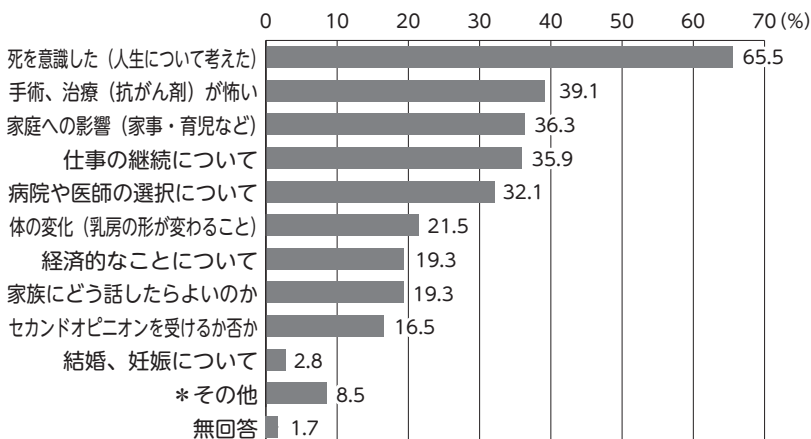
Point

- ・グラフに、月経・女性歴・それ以外の危険因子に分けて示した。
- ・40 歳以上、授乳歴なし、高身長、乳がん家族歴ありなど一般に認められている危険因子と一致している。とくに乳がん家族歴ありが全国集計より多くみられている。

問⑫ 乳がんと診断された時（告知を受けた時）にあなたが感じた不安や悩みについてお聞かせください（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	死を意識した（人生について考えた）	377	65.5
2	病院や医師の選択について	185	32.1
3	セカンドオピニオンを受けるか否か	95	16.5
4	仕事の継続について	207	35.9
5	経済的なことについて	111	19.3
6	家庭への影響（家事・育児など）	209	36.3
7	結婚、妊娠について	16	2.8
8	体の変化（乳房の形が変わること）	124	21.5
9	手術、治療（抗がん剤）が怖い	225	39.1
10	家族にどう話したらよいのか	111	19.3
11	その他	49	8.5
	無回答	10	1.7
	全体	576	100.0

累計（人）：1,719 累計（%）：298.4



* その他

- ・ 遺伝
- ・ 治療と副作用
- ・ ペットの世話

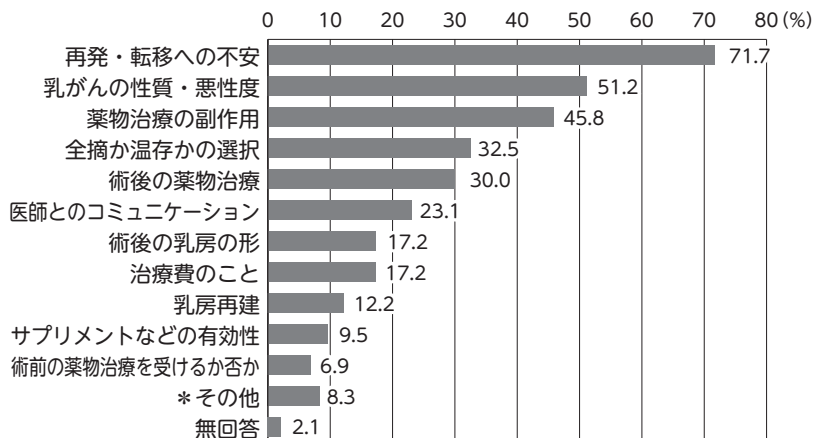
Point

- ・ 乳がん好発年齢にある 40 ～ 50 代女性が公私にわたり担う役割と責任に起因する「家庭への影響（家事・育児など）」や「仕事の継続について」の回答が、「手術、治療（抗がん剤）が怖い」と同程度にみられた。また、「家族にどう話したらよいのか」と回答した者が約 2 割みられ、子育て世代や介護（老親を気遣い世話する）世代ががんに罹患することの心情や葛藤が察せられた。

問⑬ 初発の治療時、治療に関してあなたが感じていた不安や悩みをお聞かせください（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	全摘か温存かの選択	187	32.5
2	術後の乳房の形	99	17.2
3	乳房再建	70	12.2
4	術前の薬物治療を受けるか否か	40	6.9
5	術後の薬物治療	173	30.0
6	薬物治療の副作用	264	45.8
7	再発・転移への不安	413	71.7
8	乳がんの性質・悪性度	295	51.2
9	治療費のこと	99	17.2
10	医師とのコミュニケーション	133	23.1
11	サプリメントなどの有効性	55	9.5
12	その他	48	8.3
	無回答	12	2.1
	全体	576	100.0

累計（人）：1,888 累計（%）：327.8



* その他

- ・ 医療への不信感
- ・ 不安なし

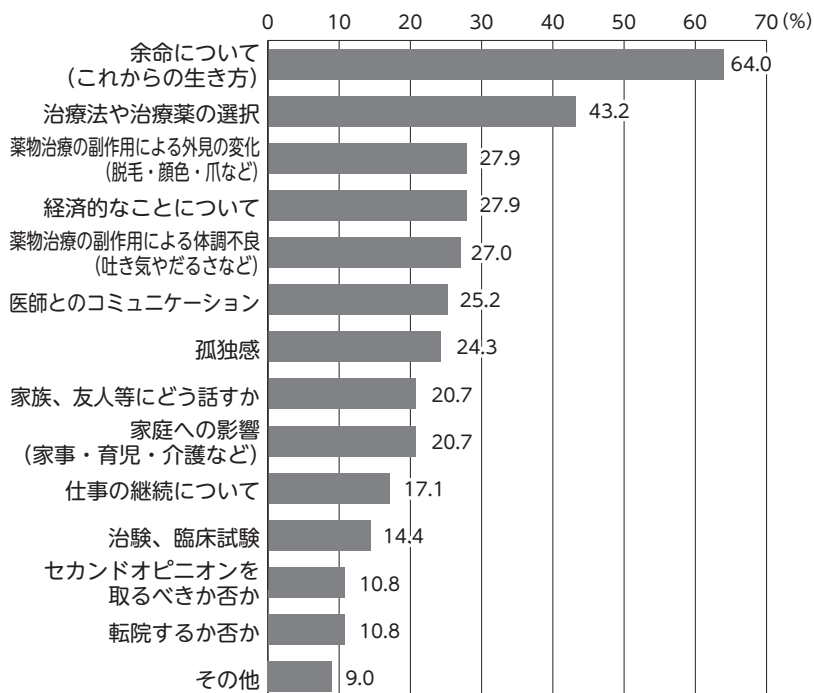
Point

- ・ 半数以上が「再発・転移への不安」や「乳がんの性質・悪性度」について不安を抱えており、病気と自身が受ける初期治療について正しく知ることが大切である。そのためには、医師との良好なコミュニケーションが重要である。
- ・ 現状では、医師から最初の治療の説明を受ける際に、内容が理解できない患者が多数いることも事実である。医療の内容が理解できないと不安が強くなる。医療者はそのことを理解した上で、多くの情報をわかりやすく伝える必要がある。そのために、①平易な言葉で書いた文書や図にそって説明すること、②医師の説明のあとで看護師が時間をとって理解状況を確認し、説明を補足するなどのフォローが必要。何よりも患者が安心できるように医療者が最善の方法と一緒に考えて努力している姿勢をみせることが大切である。一方、患者は分からないことをメモにして質問し、説明を受ける。正しい知識は自分を守る。日頃から自ら学び乳がんの予備知識をもっておくことも大切である。

問⑭ 再発転移をされた方にお尋ねします 現在のあなたの不安や悩みをお聞かせください（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	余命について（これからの生き方）	71	64.0
2	家族、友人等にどう話すか	23	20.7
3	治療法や治療薬の選択	48	43.2
4	薬物治療の副作用による外見の変化（脱毛・顔色・爪など）	31	27.9
5	薬物治療の副作用による体調不良（吐き気やだるさなど）	30	27.0
6	治験、臨床試験	16	14.4
7	経済的なことについて	31	27.9
8	家庭への影響（家事・育児・介護など）	23	20.7
9	仕事の継続について	19	17.1
10	セカンドオピニオンを取るべきか否か	12	10.8
11	転院するか否か	12	10.8
12	医師とのコミュニケーション	28	25.2
13	孤独感	27	24.3
14	その他	10	9.0
	無回答	465	
	全体	111	100.0

累計（人）：381 累計（%）：343.2



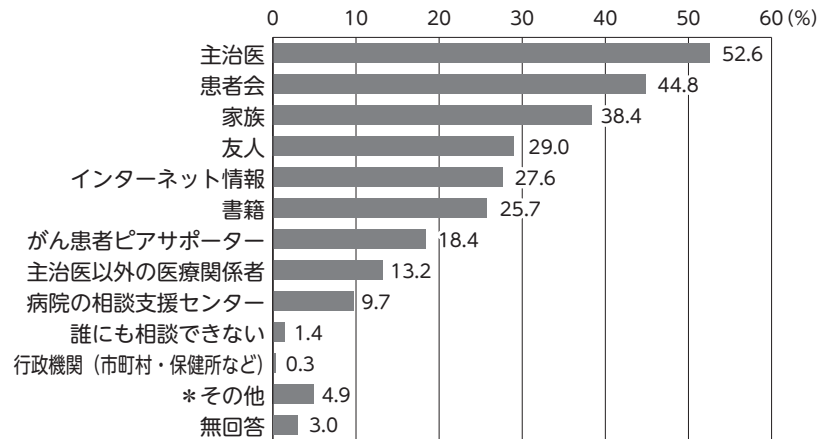
Point

- ・ 生き方や治療選択とともに、経済的な事柄が上位の不安や悩みとして示された。
- ・ 医療者は医療面のみでなく、不安や経済面での悩みについても応えられることが大切である。

問⑮ 悩んだ時、あなたは何処で誰に相談し、情報を得ていますか（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	家族	221	38.4
2	友人	167	29.0
3	主治医	303	52.6
4	主治医以外の医療関係者	76	13.2
5	病院の相談支援センター	56	9.7
6	患者会	258	44.8
7	がん患者ピアサポーター	106	18.4
8	行政機関（市町村・保健所など）	2	0.3
9	書籍	148	25.7
10	インターネット情報	159	27.6
11	誰にも相談できない	8	1.4
12	その他	28	4.9
	無回答	17	3.0
	全体	576	100.0

累計（人）：1,549 累計（%）：268.9



* その他

・ 職場

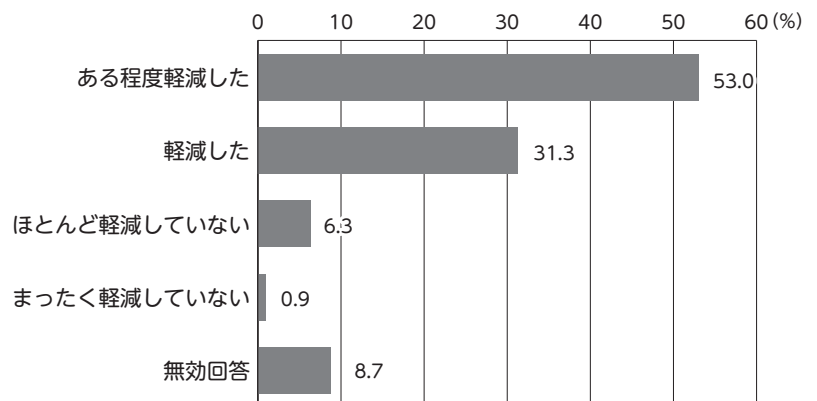
Point

- ・ 患者の約半数が、「主治医」や「家族」と共に「患者会」と回答していた。そして（次設問にて）相談によって8割以上が不安や悩みが「軽減した」・「ある程度軽減した」と回答していたことから、患者の悩みの相談やその解決に向けては、医師や家族と共に患者会の役割が大きいと思われた。
- ・ 核家族化し、周囲とのコミュニケーションが困難な我が国の現状において患者会の役割は重要である。

問⑯ 相談した結果、不安や悩みは軽減しましたか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	軽減した	180	31.3
2	ある程度軽減した	305	53.0
3	ほとんど軽減していない	36	6.3
4	まったく軽減していない	5	0.9
	無効回答	50	8.7
	全体	576	100.0

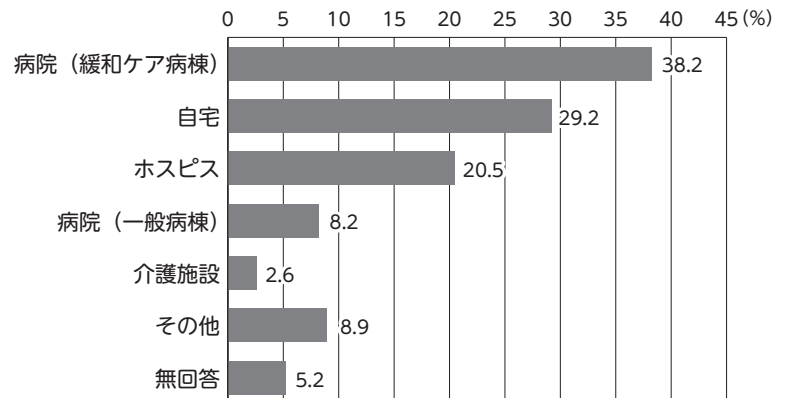
複数回答数：4 無回答：46



問⑰ あなたは、終末期をどこで迎えたいですか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	病院（一般病棟）	47	8.2
2	病院（緩和ケア病棟）	220	38.2
3	ホスピス	118	20.5
4	介護施設	15	2.6
5	自宅	168	29.2
6	その他	51	8.9
	無回答	30	5.2
	全体	576	100.0

累計（人）：649 累計（%）：112.7



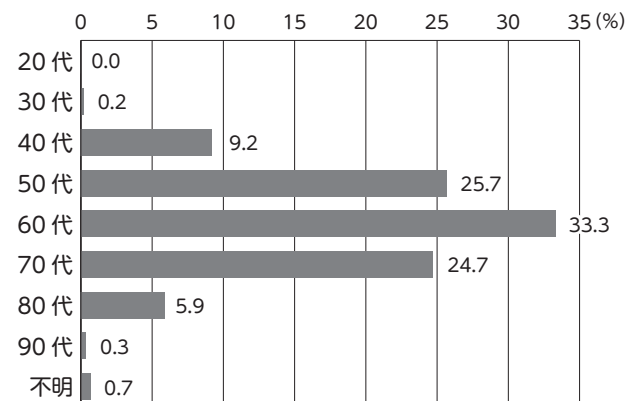
Point

- ・「病院（緩和ケア病棟）」と回答した者が約4割、「自宅」と回答した者が3割であった。
- ・緩和ケア病棟の充実が望まれる。また、自宅で終末期を迎えるには家族だけでは無理であり、緩和ケア医と連携をもつ「かかりつけ医」の強力なサポートが不可欠である。

● あなた自身について

あなたの現在の年齢は何十代ですか

No.	カテゴリー名	人数	%
1	20代	0	0.0
2	30代	1	0.2
3	40代	53	9.2
4	50代	148	25.7
5	60代	192	33.3
6	70代	142	24.7
7	80代	34	5.9
8	90代	2	0.3
	不明	4	0.7
	全体	576	100.0



Point

- ・調査参加者の内訳（年代別）は、50歳未満が9.4%、50代が25.7%、それ以上が64.2%であった。

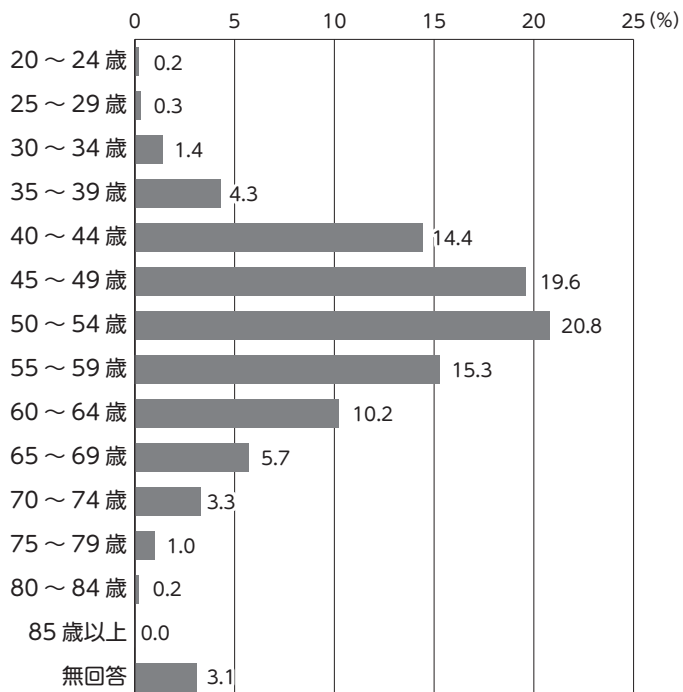
あなたが乳がんになった年齢

No.	カテゴリー名	人数	%
1	20～24歳	1	0.2
2	25～29歳	2	0.3
3	30～34歳	8	1.4
4	35～39歳	25	4.3
5	40～44歳	83	14.4
6	45～49歳	113	19.6
7	50～54歳	120	20.8
8	55～59歳	88	15.3
9	60～64歳	59	10.2
10	65～69歳	33	5.7
11	70～74歳	19	3.3
12	75～79歳	6	1.0
13	80～84歳	1	0.2
14	85歳以上	0	0.0
	無回答	18	3.1
	全体	576	100.0

平均：52.03 標準偏差：9.506

Point

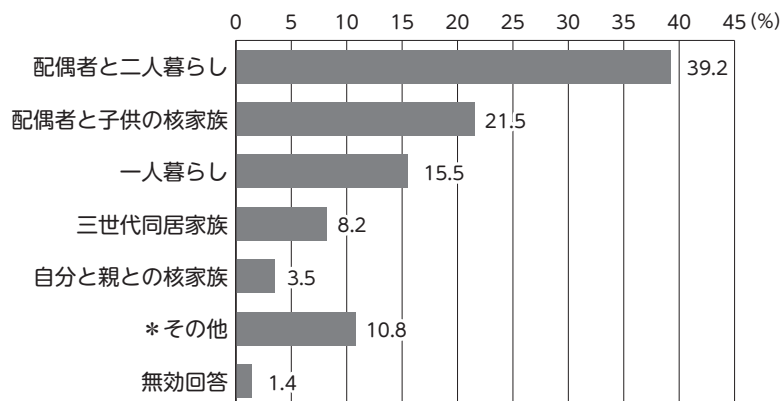
- ・乳がん罹患年齢の内訳では、好発年齢と言われる「45～49歳」と「50～54歳」を合わせると、約4割であった。
- ・現在、国の検診ではカバーできていない30代の若年者について、とくに乳がん家族歴のある者に対する検診受診の啓発が必要である。



あなたの家族形態

No.	カテゴリー名	人数	%
1	一人暮らし	89	15.5
2	配偶者と二人暮らし	226	39.2
3	配偶者と子供の核家族	124	21.5
4	自分と親との核家族	20	3.5
5	三世代同居家族	47	8.2
6	その他	62	10.8
	無効回答	8	1.4
	全体	576	100.0

複数回答数：2 無回答：6



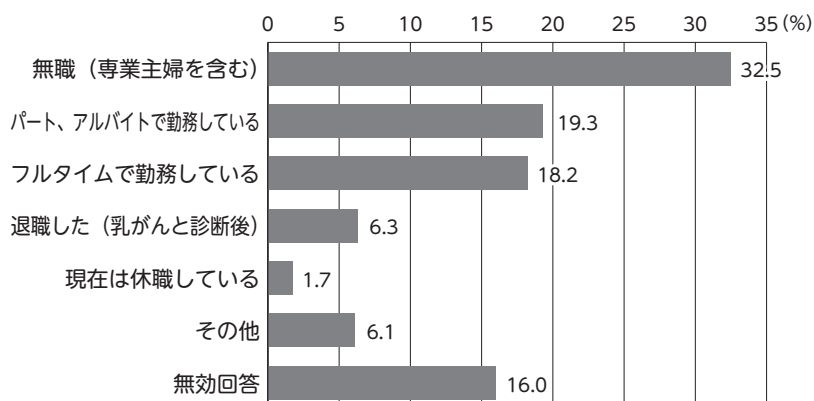
*その他

- ・自分と子供
- ・自分と兄弟姉妹

あなたの勤務形態

No.	カテゴリー名	人数	%
1	フルタイムで勤務している	105	18.2
2	パート、アルバイトで勤務している	111	19.3
3	無職（専業主婦を含む）	187	32.5
4	現在は休職している	10	1.7
5	退職した（乳がんと診断後）	36	6.3
6	その他	35	6.1
	無効回答	92	16.0
	全体	576	100.0

複数回答数：8 無回答：84



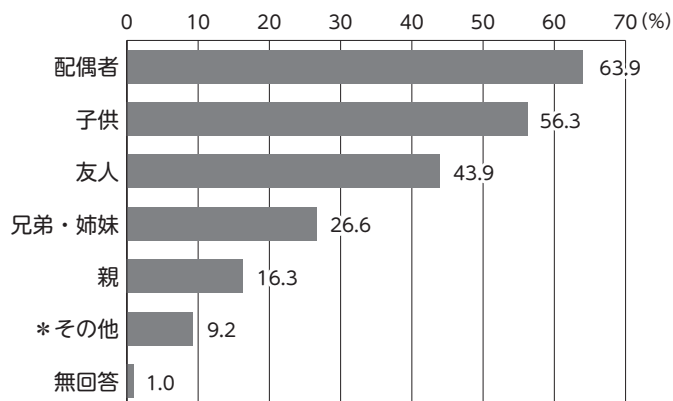
Point

- ・専業主婦が 32.5%、勤務している者が 37.5% であった。

主として、あなたを支えてくれる人（複数選択可）

No.	カテゴリー名	人数	%
1	配偶者	368	63.9
2	子供	324	56.3
3	親	94	16.3
4	兄弟・姉妹	153	26.6
5	友人	253	43.9
6	その他	53	9.2
	無回答	6	1.0
	全体	576	100.0

累計（人）：1,251 累計（%）：217.2



Point

- ・主として支えてくれる人では、「配偶者」や「子ども」といった家族とともに、約 4 割に「友人」が挙げられていた。

*その他

- ・医療関係者
- ・患者会の人